



株式会社長大

2021年9月期第2四半期決算説明会

2021年6月11日

イベント概要

[企業名]	株式会社長大
[企業 ID]	9624
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 9 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期
[日程]	2021 年 6 月 11 日
[ページ数]	48
[時間]	17:15 – 18:16 (合計：61 分、登壇：41 分、質疑応答：20 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	22 名
[登壇者]	4 名 代表取締役社長 最高執行役員 永治 泰司 (以下、永治) 取締役 専務執行役員 管理本部長 井戸 昭典 (以下、井戸)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



取締役 常務執行役員 経営企画本部長 塩釜 浩之 (以下、塩釜)
管理本部 統轄部長 鈴木 孝 (以下、鈴木)

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：皆様こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただいまから株式会社長大様の IR ミーティングを開催いたします。

最初に、会社からお迎えしている方々をご紹介します。代表取締役社長 最高執行役員、永治泰司様。取締役 専務執行役員 管理本部長、井戸昭典様。取締役 常務執行役員 経営企画本部長、塩釜浩之様。管理本部 統括部長、鈴木孝様でございます。

本日はまず、永治社長様からご説明をいただき、その後、会社様からのご説明が終わりましたら、質疑応答とさせていただきます。

それでは永治様、よろしくお願いいたします。

永治：皆様こんにちは。少し遅い時間ですが、ご足労頂きまして、誠にありがとうございます。本日は、中間決算の報告をさせていただきます。

昨年まで期末の報告のみでしたが、今年度より、もう少し皆様に情報提供をきちんとしていこうということで、中間でも発表させていただくこととしました。中間報告ですので、なかなか期末の見通しは発表できないところがありますが、決算ハイライト的な部分を報告させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結業績とトピックス

(金額単位：百万円)

(連結)	2020年9月期 中間実績	2021年9月期 中間実績	前期比
受注高	15,168	16,487	108.7%
売上高	15,930	18,258	114.6%
営業利益	2,612	3,280	125.6%

- 受注高・売上高については、公共事業を取り巻く堅調な環境の中、基幹事業である構造事業、道路事業において増加。また、連結子会社である基礎地盤コンサルタンツ、長大テックにおいても、前期に対し増加。
- 営業利益については、売上高の増加および生産性の向上により大きく増加。また、営業利益率についても改善。(前期16.4% → 当期18.0%)

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

3

ここに書いてございます数値は、昨年度と今年度の中間期の実績でございます。売上高、営業利益ともに昨年度比で10%以上の伸びとなっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結業績とトピックス（通期）

（金額単位：百万円）

（連結）	2020年9月期 通期実績	2021年9月期 通期予想	前期比
受注高	34,437	34,100	99.0%
売上高	30,954	32,500	105.0%
営業利益	3,149	2,440	77.5%
経常利益	3,195	2,460	77.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,047	1,470	71.8%

- 通期業績予想に変更なし。
- 売上高については、堅調な基幹事業の受注を背景に、通期で増収の見込。
- 営業利益については、第二四半期に利益が集中する公共事業特有の特性と当初より計画している業務消化体制の強化(技術者の増員、IT技術の導入)および研究開発等の投資が下期にずれ込んだことにより、通期で減益の見込。

こちらは、昨年度の通期実績と、今年度の期首に立てた通期計画値の比較になります。

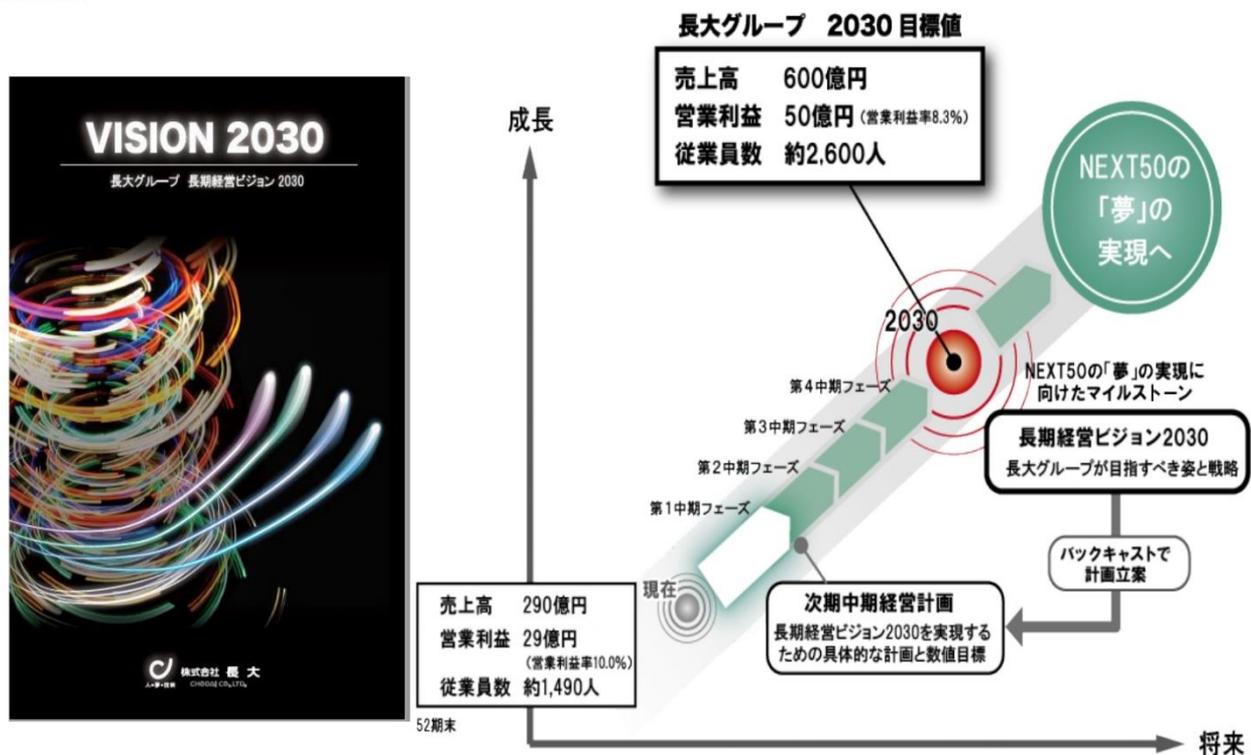
昨年度比で概ね10%強の売上高の伸びを目論んでおりまして、現時点での今年度の進捗は、若干上振れしております。ただし期末の着地については、まだまだ固定費が想定されている点と、研究開発投資をもう少し上積みしていきたいという点がありますが、全体として概ね目標通りという見通しを立てております。

売上については、既に発表してありますように、連結で若干増えると想定しております。また、営業利益等については、予定通りという想定をしております。詳しくは、後ほど塩釜より報告いたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

長期経営ビジョン2030（2019年策定）



Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

6

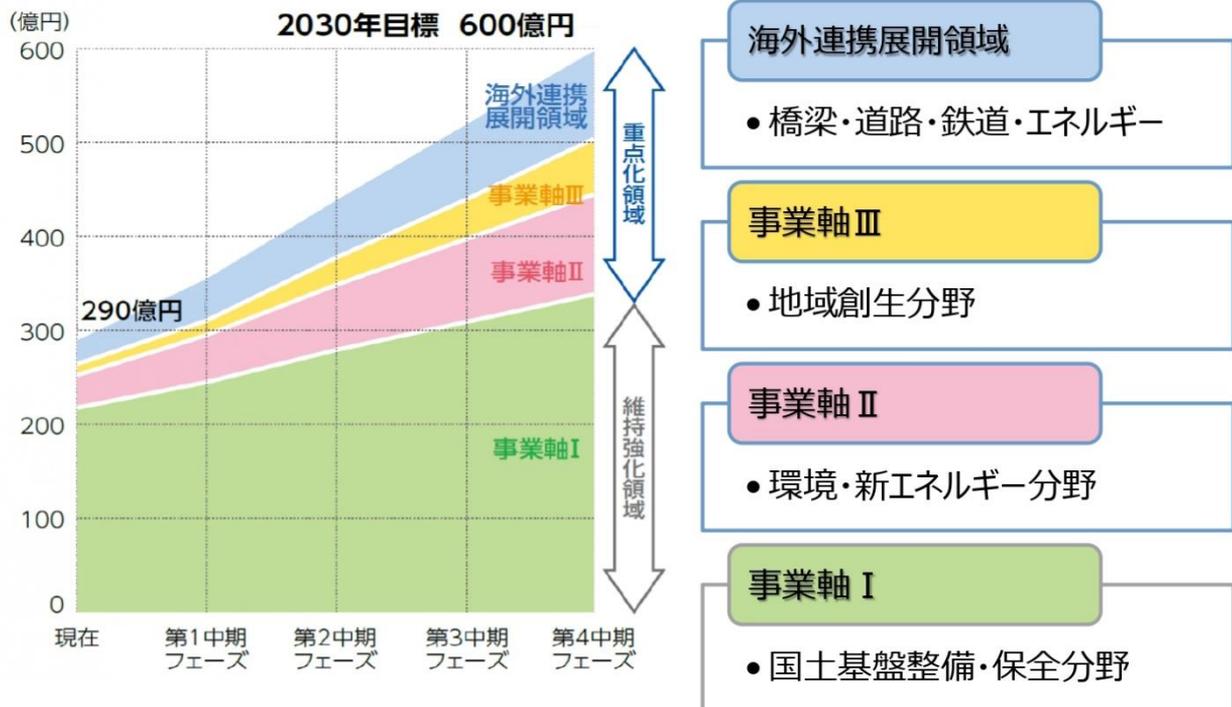
今、2030 という長期ビジョンを立てていますが、今期は図中の第1中期フェーズにおける2年目にあたります。中期は3年ごとに設定しており、第1中期フェーズ1年目は予定を上回る数値でフィニッシュすることができました。今期についても、目標通りに推移すれば中期の最終年度のラインについても、概ね予定通り推移すると見ております。

この中期の経営計画どおり、今期の目標である、売上325億円、営業利益24億円という数値を達成し、来期には更に50億円ほど売上を積み増し、利益を6億円ほど出せる計画としております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

長期経営ビジョン2030で注力する事業



Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

7

以上のように、概ね事業は順調に推移しております。

特に、国や地方自治体といった国内の基幹事業が国土強靱化のもと、堅調に推移しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

持続成長プラン2019（中期経営計画）



主要施策と横断的な取り組み	
事業軸Ⅰ 国土基盤整備・保全分野	基幹事業のさらなる強化と河川、防災分野への事業拡大 国内未開拓エリア・顧客・業種における受注力強化
事業軸Ⅱ 環境・新エネルギー分野	環境事業の強化 再生可能エネルギー事業の基盤づくり
事業軸Ⅲ 地域創生分野 海外連携展開領域	新たなまちづくり事業の基盤づくり 構造および鉄道事業を中心とする主要事業の強化・育成 東南アジアにおける重点地域展開
横断的な取り組み	イノベーションとIT化への投資拡大 働き方改革とダイバーシティのさらなる推進 さらなる成長の基盤となる組織づくり

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

8

昨年は、大きな災害が熊本でありましたが、大きな災害の全体数は比較的少ない方でした。一方で今年の気象状況を見ますと、相当な注意が必要だろうとっております。そのため、災害対策・防災対策に力点を置いており、長大のみならず、グループ子会社の基礎地盤、長大テックと一体となり対応できるよう、体制を整えております。

昨今はコロナ禍で大変ではありますが、災害は毎年毎年、もう何十年も残念ながら起きています。コロナと同等、あるいはコロナ以上に、災害に対しては対応していかなくてはならないと考えております。

したがって今期は、今から準備しておくというのも変ですが、いつ災害があっても対応できる体制をとっておきたいと考えています。

コロナの影響については、海外は残念ながら、特に受注が低迷しております。なかなか受注活動を行えないという状況がございまして、契約しているものの、何かあればすぐに日本に戻ってこなくてはならないというような形で、進捗が思わしくありません。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

特に、フィリピンで行っています PPP 事業につきましては、お互いに実際の現場での作業がある中、先方もわれわれも動けない状況が続いていましたが、ようやく先月から、私どもの社員が現場に入ることができるようになり、今、その事業を進める手配の段階までこぎつけることができました。

連結通期業績予想

(金額単位：百万円)

(連結)	2020年9月期 通期実績	2021年9月期 通期予想	前期比	2021年9月期 中間実績	通期 進捗率
受注高	34,437	34,100	99.0%	16,487	48.3%
売上高	30,954	32,500	105.0%	18,258	56.2%
営業利益	3,149	2,440	77.5%	3,280	134.4%
経常利益	3,195	2,460	77.0%	3,389	137.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,047	1,470	71.8%	2,220	151.0%

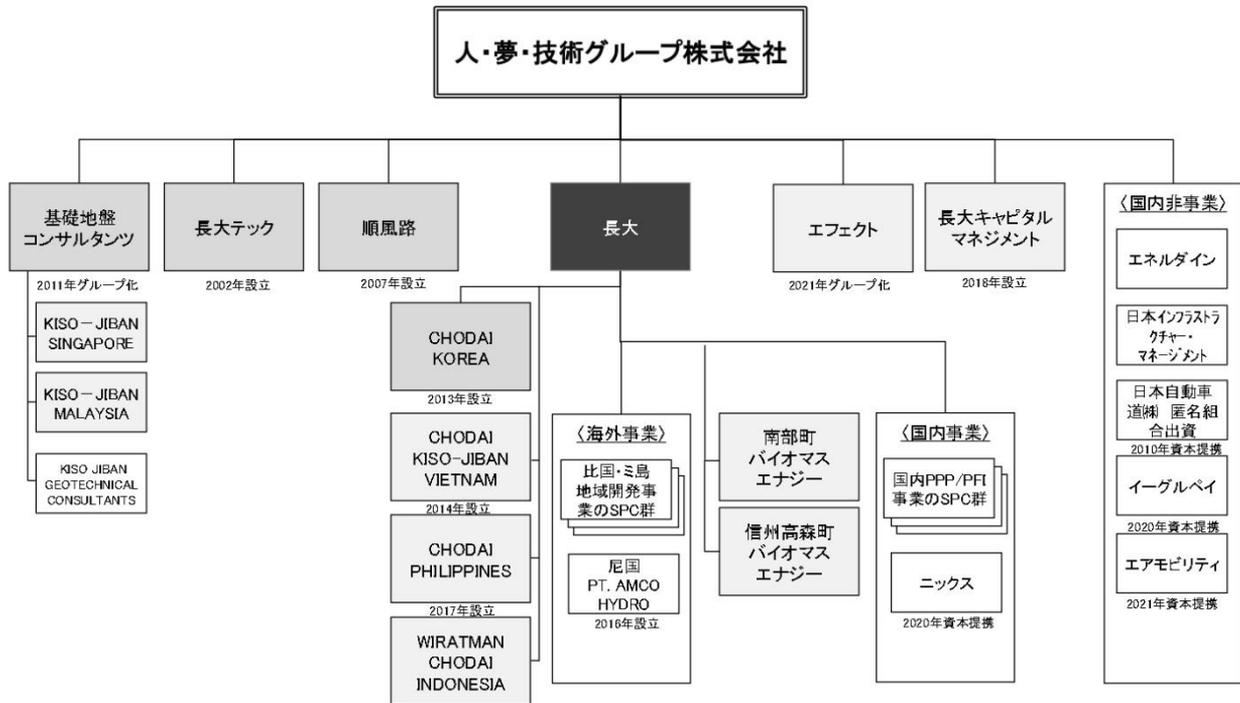
- 通期業績予想に変更なし。
- 売上高については、堅調な基幹事業の受注を背景に、通期で増収の見込。
- 営業利益については、第二四半期に利益が集中する公共事業特有の特性と当初より計画している業務消化体制の強化(技術者の増員、IT技術の導入)および研究開発等の投資が下期にずれ込んだことにより、通期で減益の見込。

ただし、全体の売上規模からすると、海外事業は残念ながらまだそんなに大きくありませんので、コロナの影響の度合いは非常に少なかったと言えますし、国内の増加で十分まかなえているという状況です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人・夢・技術グループ組織体制



Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

12

現時点では、10月1日を創立日としております。主な連結子会社は、基礎地盤コンサルタンツ、長大テック、順風路、長大、エフェクト、長大キャピタルマネジメントとなります。

そのほかにも投資している関係企業、子会社がいくつかあります。純粋持株会社化するというのは、これからの事業を進めていく上で、いろいろな業種の方と協業していくということが重要だと考えるからです。協業のためには、まずグループとして夢のある世界を作り、そこにいろいろな業種の方に入っていただいて、われわれと一緒に事業を進めていくという未来を描いています。

特に今は、地方創生がたいへん重要なキーワードになっていますが、その中では、単に昔のように構造物を造るとか、あるいは建物を作るとかいうことではなくて、そこに人が夢を持って暮らせるという社会を作っていく必要があると思っており、様々な業種の方にグループに入っていただかないと実現できないと考えています。

サポート

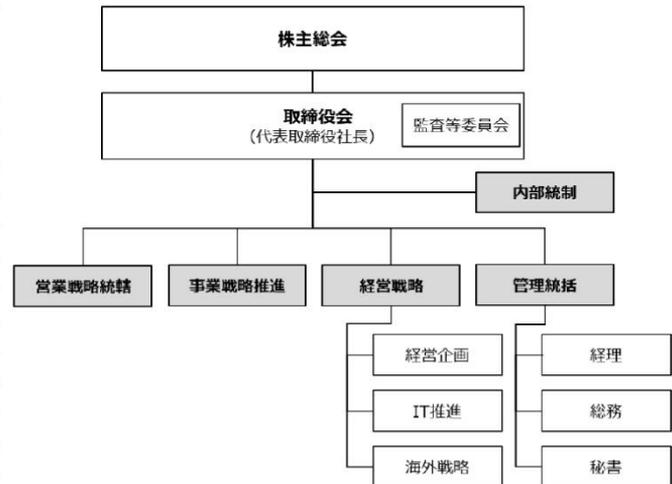
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

人・夢・技術グループ 会社概要と組織

会社概要

商号	人・夢・技術グループ株式会社 (英文名: People, Dreams & Technologies Group Co.,Ltd.)
本社所在地	東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目20番4号
資本金	31億750万円
設立年月日	2021年10月1日
発行株式数	9,416,000株
決算期	9月30日
設立時役員等	
取締役	永治 泰司 野本 昌弘 柳浦 良行 塩釜 浩之
監査等委員 である取締役	西村 秀和 田邊 章 (社外) 二宮 麻里子 (社外)

会社組織図



そのためにも他業種の企業でもグループに参入しやすい環境を構築し、なおかつ、横連結といえますか、会社間の連携を強化して、良い仕事ができるようにしたいと考えています。単純なポートフォリオを求めて、数値的な管理だけを行う持株会社ではなくて、持株会社としていろいろな事業企画をして各社に割り振る、あるいはお願いをするという形で、グループの夢を実現させていこうと考えています。

持株会社は、新事業を主に扱う営業関係や経営企画で、何を進めていくのかということを中心に考えて、他の会社の皆さんと一緒にやっていくんだという意思を明確に打ち出す組織にしていきます。

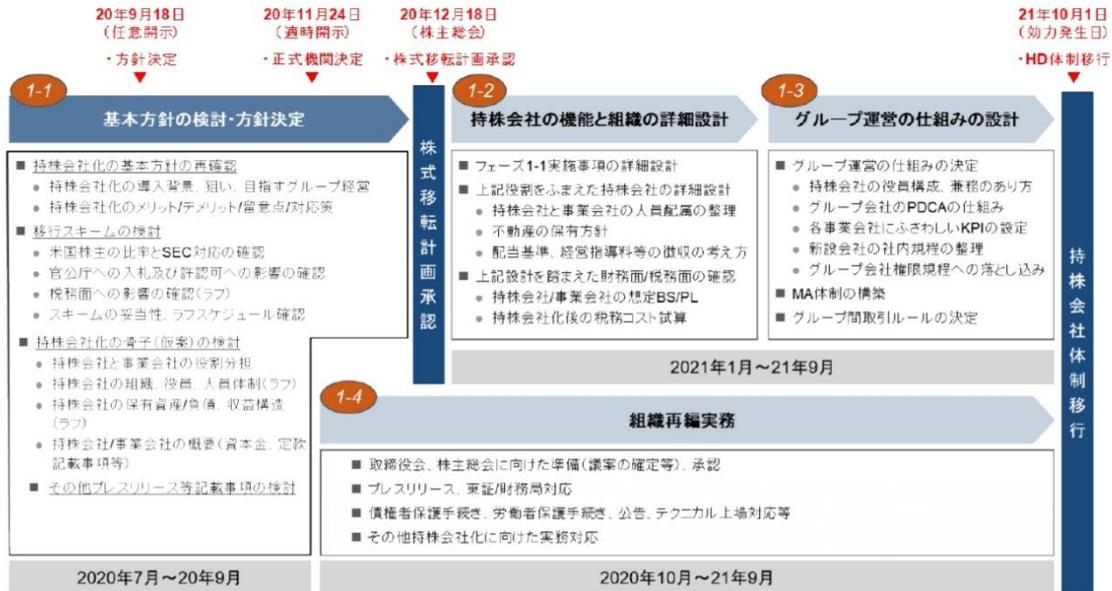
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

持株会社化に向けた検討経緯と概要

2020年7月から本格検討を開始

- 2020年7月、2021年10月1日を効力発生日とする持株会社体制への移行に向けて「Gプロジェクト」を発足
- 2020年9月に、持株会社化の基本方針を決定(9月18日に任意開示)
- その後も法的手続きを進めて、11月に取締役会(11月24日に適時開示)、12月18日に定時株主総会において、持株会社体制移行に必要な機関決定を実施。また、いずれの機関決定の前後に、各種手続き対応(東証や関東財務局等への書類提出・開示)を実施



既に、昨年の12月に株主の皆様より承認をいただき本格的に組織や運用体制について検討しており、概ね形が見えてきたところです。

先ほど少しお見せしましたが、組織としては大きくはこんな形の組織の中で事業計画を作り、いろいろな事業を行うためには、人的・資機材の投資が必要になってきます。そういうものを単体の個社で工面するのではなく、この「人・夢・技術グループ株式会社」の中で、工面して使っていただくことを想定しております。そういった形で、これからも進めていく予定であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人・夢・技術グループ コーポレートマーク & HP

グループ会社全社から コーポレートマークを公募

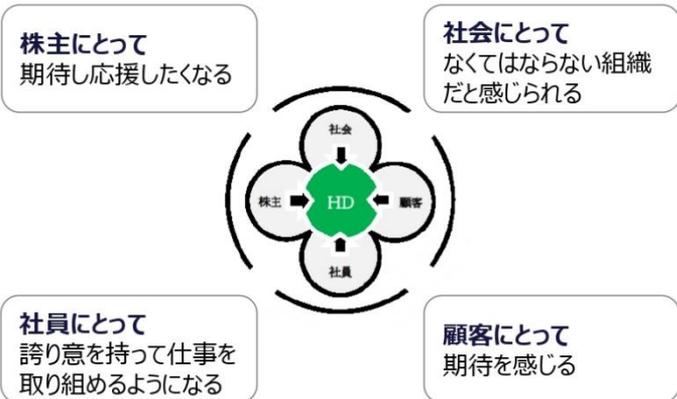
104点にのぼる応募
現在、選考中



集合写真は2017年11月13日50周年記念式典にて撮影

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

ホームページ作成とメッセージの発信



これはおまけみたいな話ですが、今、コーポレートマークをグループ企業内全員から募集して、全部で104件の応募がありました。その中から今、10件まで協議して絞りまして、これから最終的に一つに決めていきます。コーポレートマークをここで出せば良かったのですが、まだ選考中のため間に合いませんでした。こちらは予定通りやっていますので、また近々発表させていただければと思います。

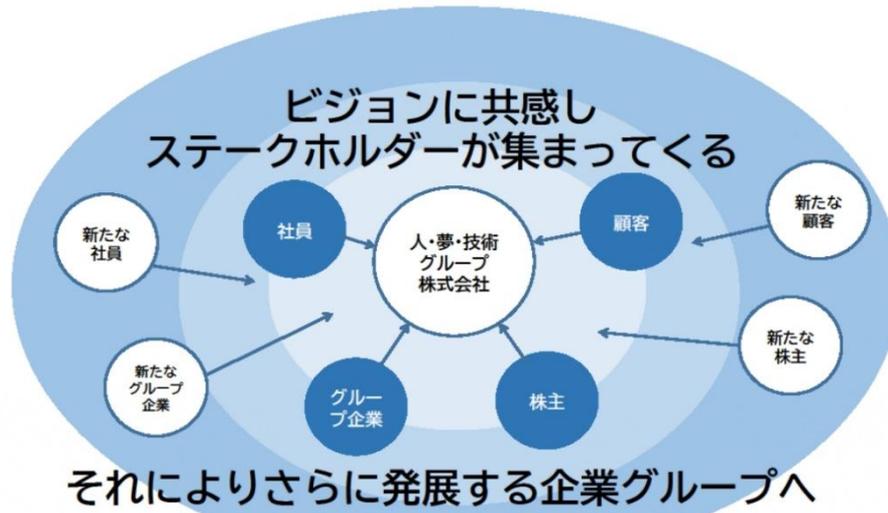
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

持株会社「人・夢・技術グループ」へ

2021年10月1日

「人々が夢を持てる社会、
そして未来の構築に技術で貢献するグループへ」



Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

17

この「人・夢・技術グループ」の基本は、人々が夢を持てる社会、その構築を技術でサポートしていくというのが、グループとしての元々のコンセプトです。コンセプトを端的に表すスローガンを会社名にも用いて、「人・夢・技術グループ」という名称としました。いろいろな方に聞くと、ユニークな名前だという評価をいただきますので、かえって覚えやすくいいかなと思っていますし、我々の気持ちを社名にしたということをご理解いただければと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

結

むすぶ

永治泰司 書

- 新型コロナ禍において厳しい環境の中で個々の社員が結びつきを深め、地域とつながりを深め、企業連合を進めて、新たな未来に希望をもって前進することを願うものである。

「結」という文字を、今期のシンボル文字として、長大の中で使っていますが、厳しい環境の中、社員、社会あるいは参画してくれる企業との結びつきを強め、新しい時代に進んでいこうという意味で、「結」という字を設定しました。終わりという意味の結びではありませんので、ご理解いただきたく思います。

以上で、私の方から、主に新会社についてのお話になりましたが、結びとさせていただきます。

引き続き、塩釜より決算報告をさせていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結損益計算書

連結損益計算書

(金額単位：百万円)

項目	2020年9月期 中間実績		2021年9月期 中間実績		前期比		2020年9月期 通期実績	
	金額	売上比	金額	売上比	増減金額	比率	金額	売上比
売上高	15,930	100.0%	18,258	100.0%	2,328	114.6%	30,954	100.0%
売上原価	10,155	63.8%	11,700	64.1%	1,544	115.2%	21,150	68.3%
売上総利益	5,774	36.2%	6,558	35.9%	783	113.6%	9,804	31.7%
販管費	3,161	19.8%	3,277	18.0%	115	103.7%	6,654	21.5%
営業利益	2,612	16.4%	3,280	18.0%	667	125.6%	3,149	10.2%
営業外損益	△8	-	109	0.6%	117	-	46	0.1%
経常利益	2,604	16.3%	3,389	18.6%	785	130.2%	3,195	10.3%
特別損益	△26	-	-	-	△26	-	△36	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	1,632	10.2%	2,220	12.2%	587	136.0%	2,047	6.6%

塩釜：それでは塩釜より、決算報告について説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。

こちらのスライドは上期のP/Lでありまして、それぞれ売上、売上原価を示しております。

結論から申しますと、売上が182億で、前期比114%で、非常に好調な上期を終えることができました。その結果、営業利益も32億8,000万で、対前期比125%です。

営業利益の売上に占める割合は18%です。これは、18%と非常に大きいですが、上期の締めということで、上振れと言いますか、多めに出ているところです。最終的には、もう少し下がっていくと想定しています。いずれにせよ最終的には、税前の利益に関しても同様に、136%と非常に好調でした。

今回、好調だった原因としまして、公共事業が非常に順調であったという業界全体の流れがあったと同時に、私たちのグループの基礎地盤コンサル、長大テック、それぞれが上期、非常に利益に貢献してくれたことでグループ全体の利益を押し上げることができたことが非常に良かったと感じております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結セグメント別の業績

連結セグメント別売上高・売上総利益

(金額単位：百万円)

項目	2020年9月期 中間実績	2021年9月期 中間実績		前期比	2020年9月期 通期実績	
	金額	金額	構成比	比率	金額	
売上高	コンサルタント事業	15,645	17,874	97.9%	114.3%	30,368
	サービスプロバイダ事業	144	207	1.1%	143.7%	234
	プロダクツ事業	140	175	1.0%	125.2%	351
	合計	15,930	18,258	100.0%	114.6%	30,954
売上総利益	コンサルタント事業	5,674	6,398	97.6%	112.8%	9,668
	サービスプロバイダ事業	88	132	2.0%	150.2%	110
	プロダクツ事業	12	27	0.4%	224.6%	36
	合計	5,774	6,558	100.0%	113.6%	9,814

こちらのスライドは連結セグメント別の業績です。

弊社グループは、コンサルタント事業とサービスプロバイダ、プロダクツの三つを持っています。メインはコンサルですが、サービスプロバイダ、これはPPP/PFI含めて、自分たちがプロバイダーとなってやっという気構えでフィリピンや国内のPPP/PFI事業を行っております。

プロダクツ事業は、型枠ですとか、建設の現場の中でエコに貢献しようということを行っています。この二つは、まだまだ売上量的には少ないですが、今後伸びていく分野ということで、力を入れております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結貸借対照表

連結貸借対照表

(金額単位：百万円)

項目		2020年9月期 実績	2021年9月期 中間実績	増減金額
資産	流動資産	19,864	24,482	4,618
	有形固定資産	3,704	3,765	61
	無形固定資産	224	494	270
	投資その他の資産	4,107	4,564	456
	合計	27,901	33,307	5,406
負債	流動負債	9,290	12,458	3,168
	固定負債	2,465	2,919	454
	合計	11,755	15,378	3,622
純資産		16,145	17,929	1,783
負債・純資産合計		27,901	33,307	5,406

- 流動資産が増加した主な理由は、現金及び預金(1,877百万円減少)と受取手形及び完成業務未収入金(6,100百万円増加)
- 流動負債が増加した主な理由は、短期借入金(2,703百万円増加)と未成業務受入金(366百万円増加)
- 純資産が増加した主な理由は、利益剰余金(1,682百万円増加)

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

22

こちらのスライドに示しております B/S のポイントを説明します。

上期が終わりまして、資産の部としては、合計で 333 億円でありました。負債・純資産の部として、それぞれ 153 億円と 179 億円、合計 333 億円でございます。

前期と比較して、大きな動きがあったところだけハイライトしますと、流動資産が増加したところが大きな点です。主な理由としては、上期ということで3月年度末に売上が立ち、完成業務の未収入金が 61 億円あった一方で、現預金が 18 億円減少しております。

次に、流動負債が増加しました。短期借入金が増加と、未成業務の受入も若干ですが、4 億円ほどあり、それを合計が流動負債の増加の要因となります。また純資産が増加した主な理由としては、利益剰余金の増加によるものです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー

(金額単位：百万円)

項目	2020年9月期 中間実績	2021年9月期 中間実績	増減金額	2020年9月期 通期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,031	△2,922	108	3,795
投資活動によるキャッシュ・フロー	△266	△1,217	△950	△474
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,096	2,241	△854	△487
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,231	6,403	1,172	8,277

- 2021年9月中間期営業活動によるキャッシュ・フロー△2,922百万円の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益で3,389百万円、受取手形及び完成業務未収入金の増加で△6,074百万円
- 2021年9月中間期投資活動によるキャッシュ・フロー△1,217百万円の主な内訳は、投資有価証券の取得による支出で△498百万円、貸付による支出で△389百万円、連結範囲の変更に伴う株式取得による支出で△169百万円
- 2021年9月中間期財務活動によるキャッシュ・フロー2,241百万円の主な内訳は、短期借入による収入で3,303百万円、配当金の支払で△536百万円

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

23

こちらのスライドは連結キャッシュ・フローを示しています。

前期と比較しまして、ちょっと特徴的なところがあります。前期の有価証券報告書には載せていますが、決算報告には載せておりませんことをご了承ください。

簡単に紹介いたしますと、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナス 29 億円ありますが、これは、税前の純利益が 33 億円あったことと、対して完成業務の未収入金が 61 億円ほどあったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期に比べて、約 9 億円増加していることが特徴的だった点です。有価証券の取得による約 5 億円の支出がありますが、主な要因は、これまでにホームページ等で紹介しております、いろいろな事業をしていく上で、IT の事業会社と資本提携をさせていただいたということでもあります。

特に、スーパーシティ事業を進めていくためのパートナーや、新しい事業として、空の移動革命ということで、空飛ぶクルマという事業を推進したいと考えています。単体ではできませんので、協業して実現させていくため、資本提携させていただいております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

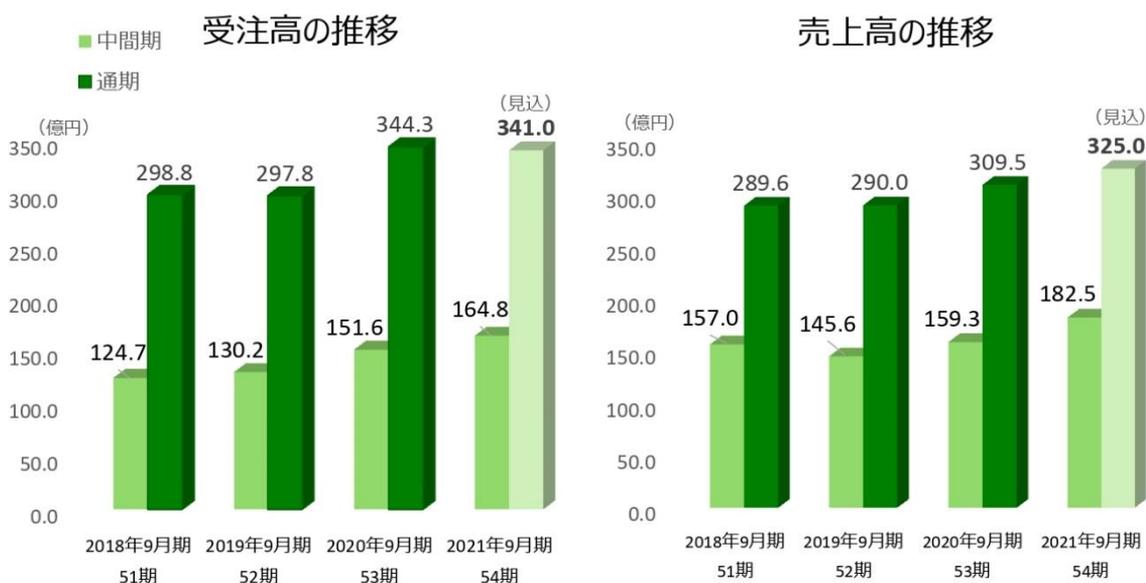


その他、社内を含め生産性効率を高めるために、事業に関してのITスキルを高めようと、4~5社のIT系の会社と資本提携させていただくなど、この上期は立て続けに他業種の企業様と資本提携させていただきました。投資家の皆さんから投資いただいた資金を、成長に向けて戦略的に使っていきたいと考えております。

もう一つ細かいところでは、貸付による支出が約4億円弱あります。これは、グループ子会社の長大キャピタルマネジメントへの貸付です。長大キャピタルマネジメントは、弊社グループが進めておりますPPP/PFI事業を、つなぎ資金で支えていくことを生業としております。グループ全体で進めようとしているプロバイダー事業に対して、資金面から支えるという目的を持った会社ですが、そこに対して、本体の方から貸付を行っています。

今期、上期はいろいろな事業に関する投資・出資をさせていただいたことが、大きなご報告事項です。ここは今後、事業として成果が出るよう、ご期待いただければと思っております。

連結業績の推移



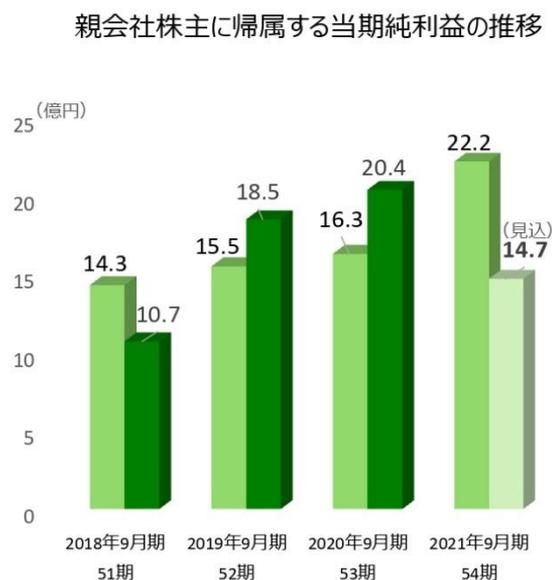
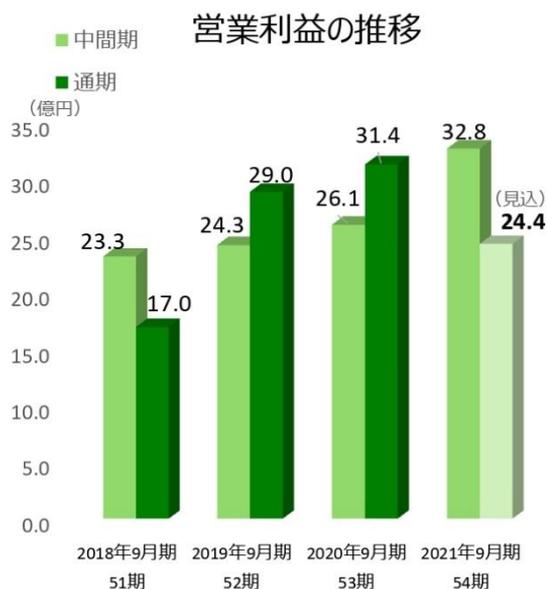
こちらのスライドは受注高の推移、売上高の推移です。

直近の3期分を載せておりますが、今期は非常に順調な受注・売上が立ってきています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結業績の推移



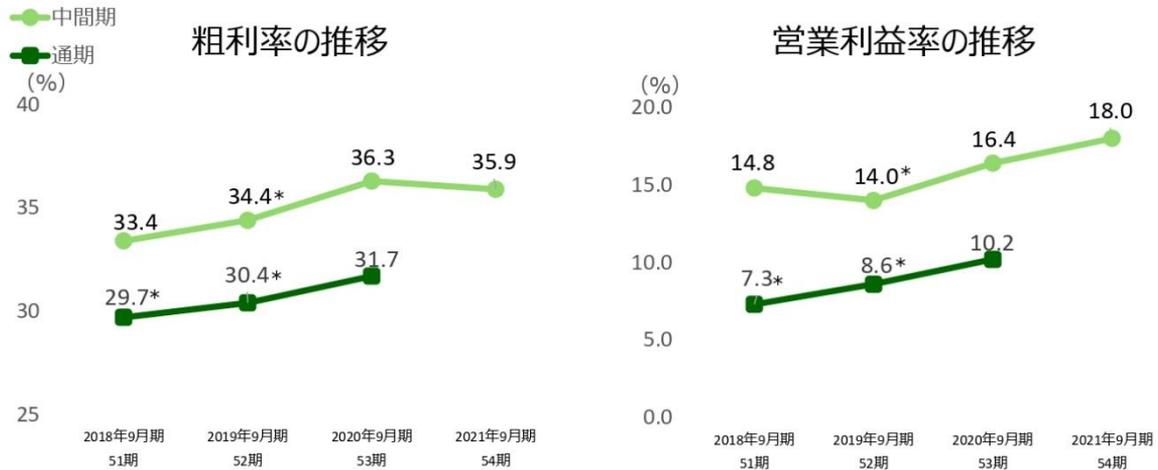
こちらのスライドからもおわかりいただけるように、営業利益、最終純利益も同じく伸びてきています。

通期の営業利益と最終純利益が、52期で増加し51期が減少していますが、これは以前報告した基礎地盤コンサルの現地地質調査業務における損失の引当があり、それが期をまたいだことからでこぼこがありますが、期またぎを考慮しますと、非常に綺麗な右肩上がり営業利益が上がっているのがご理解いただけたと思います。最終純利益も、右肩上がり綺麗に上がっていることをお示ししたいと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結業績の推移



*補償金引当金4億円の影響を除いた数値となります

- 業務効率化、IT化等による生産性向上により粗利率は改善傾向。合わせて、営業利益率向上に寄与。

こちらのスライドは粗利と営業利益の推移を示しております。

粗利益が、ここ3、4年の間に非常に右肩上がりになっているのがおわかりいただけるかと思えます。グループ全体で、業務効率化をテーマにしております。これからどんどん事業を展開していく上で、足元をしっかりと固めていくという意味で、業務効率化を社内で行っております。IT、事業による効率化をそれぞれ進めていることが、少しずつ数値として現れております。

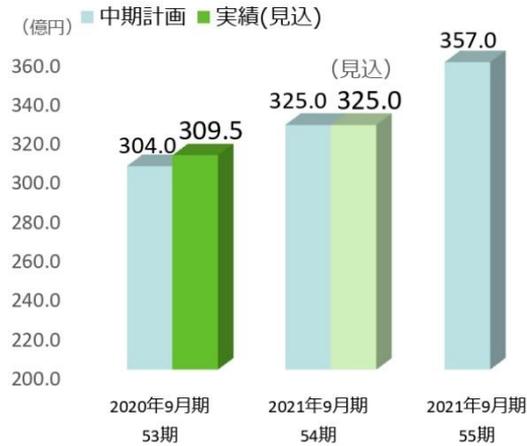
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

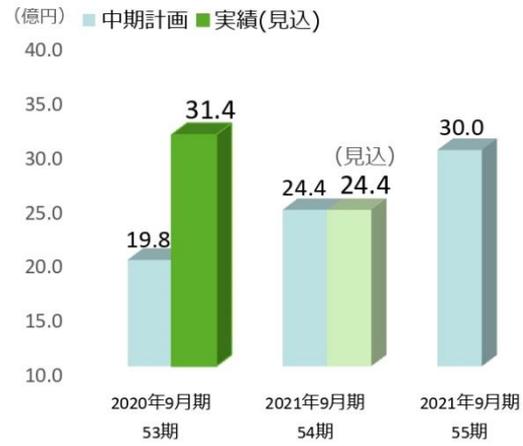
連結業績の推移（中期計画との比較）

中期経営計画「長大持続成長プラン2019」と実績・予想

売上高の推移



営業利益の推移



● 54期は業務消化体制をさらに強化するため、減益の見込

こちらのスライドは中期計画との比較です。

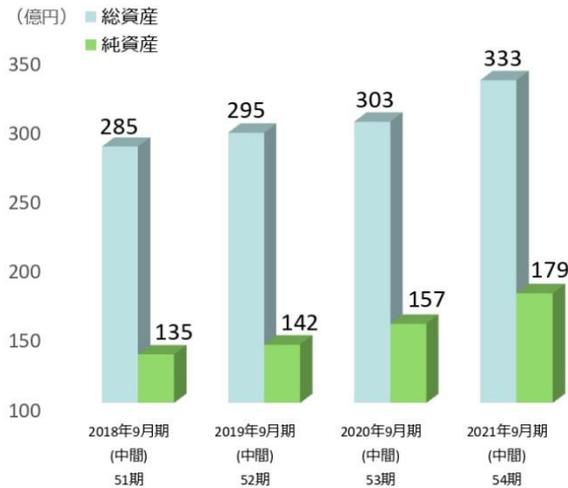
今現在、長大持続成長プラン 2019 という中期計画（以下、中計）の真ただ中におりまして、来期で中計が終わる中、冒頭、永治より説明しました通り、予定通り順調に、もしくは予定より若干先行しながら進んでおります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

財務状況の推移

総資産・純資産の推移



自己資本比率の推移



こちらのスライドは総資産・純資産の推移、それから自己資本比率の推移を示しております。

弊社グループは、財務体質が安定していて、昨今の利益売上の向上を含めて、数字が右肩に上がっており改善が見られます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

持株会社体制移行・記念配当の実施

記念配当の実施

- 当社は、2021年10月1日付で持株会社体制へ移行し、商号を「人・夢・技術グループ株式会社」に変更することを予定。
- 2021年9月期の期末配当につき、**1株当たり5円の記念配当**を実施。
- 1株当たりの期末配当金は、普通配当と合わせて**合計47円**の予想となる。

	年間配当金		
	第二四半期	期末	合計
前回予想 (2020年11月13日)	0円	42.00円	42.00円
今回修正予想 (2021年5月14日)	0円	47.00円 (普通配当 42.00円) (記念配当 5.00円)	47.00円 (普通配当 42.00円) (記念配当 5.00円)
当期実績			
前回予想 (2020年9月期)	0円	58.00円	58.00円

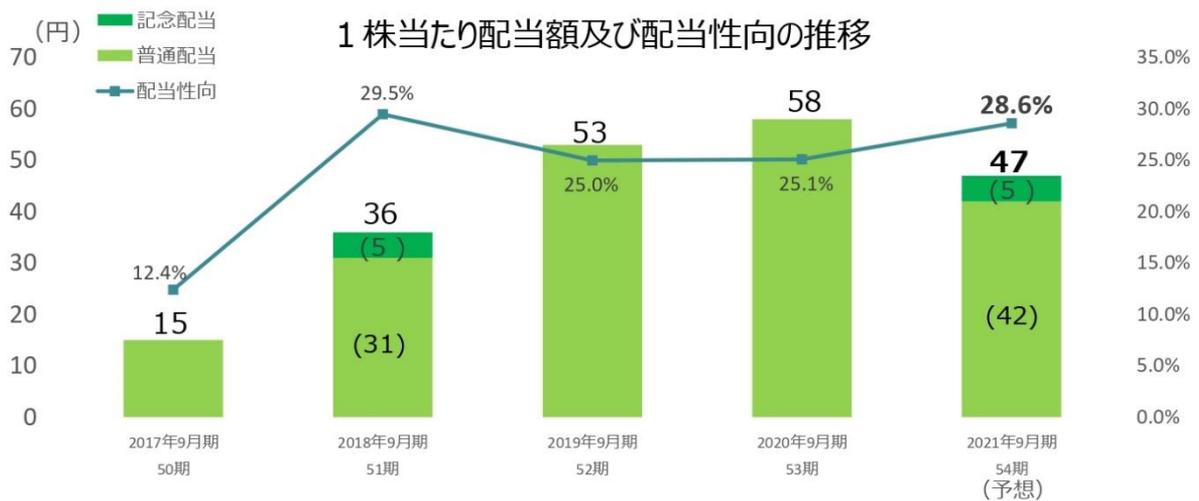
これらを踏まえ、業績が非常に好調であることと、10月1日から持株会社に移行していくということで、記念配当を行わせていただきたいと考えております。

5月14日に既に報告させていただきましたが、5円の記念配当を普通配当に上乗せしたいという考えであります。当初42円の配当を見込んでおりましたので、プラス5円で47円、これに最終的にもう少し上乗せできるよう、頑張っって利益を積んでいきたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1 株当たり配当額及び配当性向の推移



- 51期 : 配当性向25%を目安とする配当額31円
+東京証券取引所市場第一部銘柄指定記念配当5円
- 52期以降 : 1株当たり配当額40円と、配当性向25%に基づく配当額の
高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針による
(長期経営ビジョンの最終年となる2030年までの間、より安定的に配当)

Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

30

こちらのスライドは配当性向について示したものです。

今現在の47円は、28.6%になります。これは本日の株価でいきますと、配当利回り2.4%に相当します。配当政策としましては、平均的にも高い数字で株主の皆さまへ還元できているのではないかと考えております。

以上が、簡単ですが数値の報告となります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

横断的な取り組み

M & A戦略を加速、4社と協業資本提携

資本業務提携

株式会社ニックス(2020年11月出資)

クラウドサービスの提供・導入コンサルティングやWebソリューションの開発・構築支援を行うなど、多くの実績を持つIT企業です。ニックス社との協業は、IT技術の活用による生産性の向上、情報システム事業の体制強化、社内のITインフラの構築・運用の体制構築などに資するものと考えています。

イーグルペイ株式会社(2020年11月出資)

キャッシュレス決済およびペイメントサービス事業を展開する将来有望な企業です。長期経営ビジョン2030で掲げる「長大タウン構想」、また現在内閣府が掲げるスーパーシティ構想において、当社グループが持つ様々なインフラ、IT、再エネ技術に革新的なスキームやサービスを実装することで、未来のまちづくりを実現することを目指しています。イーグルペイ社との協業で、生活の場のあらゆる場面で必要となる決済を統合型のプラットフォームで結ぶことが可能となり、新たなまちづくりに対して両社で企画提案を行うなど様々な事業シナジーを生み出すことができると考えています。

エアモビリティ株式会社(2021年3月出資*)

空飛ぶ自動車関連のサービス、商品、企画、製造、販売等を行う企業です。当社は、「空の移動革命に向けた官民協議会」の一員でもあり、「空飛ぶクルマ」の実現に向け、多方面で展開するエアモビリティ社と世界に先駆けた未来都市の実現を推進していく予定です。

*第三者割当による新株発行の引き受けにより出資



出典:経済産業省ウェブサイト
【都市での人の移動】

完全子会社化

株式会社エフェクト(2021年3月全株式取得)

組み込みソフトウェアやAI/IoT活用システムの自社開発を行うなど、今後の成長が期待される福岡県のIT企業です。高い技術力を持つ人材を豊富に有し、先端IT技術を活用し、道路交通の安心・安全や農業の生産性向上など地域課題の解決に取り組んでいます。当社グループの経営資源やノウハウをエフェクト社と共有し、各種研究開発を加速させ、新たな事業領域の創出や既存事業の拡大を推進していきます。

ここで少し、横断的な取り組みを簡単に紹介いたします。

営業活動に伴うキャッシュ・フローでもご紹介いたしました、上期に非常に投資・出資したという内容です。既にホームページ等で公表しておりますが、株式会社ニックス、イーグルペイ株式会社、エアモビリティ株式会社、株式会社エフェクト。全て、ITをベースとして、いろいろな事業をやろうとしている会社であります。

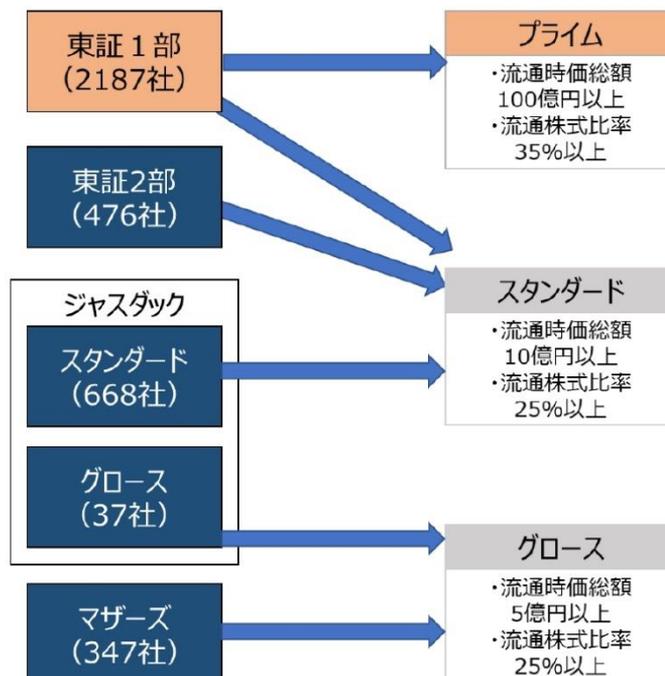
さきほど永治も申したとおり、私たちはこれからどんどん事業を横展開していこうと考えております。特にサービスプロバイダといいますか、自分たちが事業を行って、コンサルワークをしながら新たな展開に出ていく際には、コンサルタンのグループだけでは、目指している事業はできません。ITスキルに長けた事業者と手を組んでいくことではじめて可能になります。今、そのあたりを開拓しながら横展開している、その表れがこれらの協業者との資本提携です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2022年4月 東証市場区分再編成

新市場区分への移行イメージと主な上場条件



Copyright ©2021 CHODAI Co., LTD. All Rights Reserved

33

もう一つの話題として、東証市場の改変があります。私たちもプライム市場へ向けて準備を行っております。

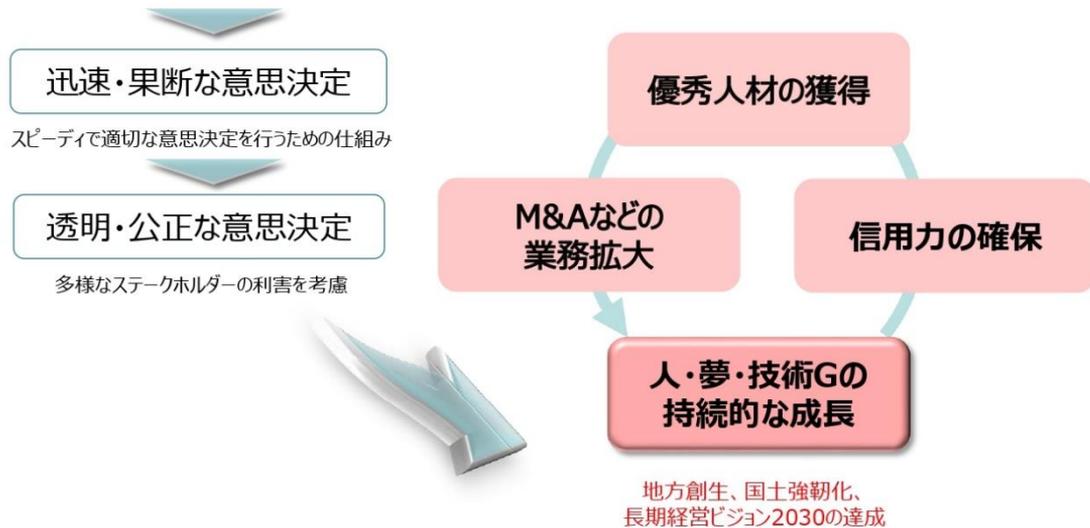
今のところ、上場基準であります「流通時価総額の100億以上」につきましては、4、5、6月の3カ月の平均株価で決まるので、ここは何とかクリア、合格点が得られそうかなと思っております。来年4月の移行に向けて、着々と準備を進めているところです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

東証市場区分再編成「プライム市場」を目指す

コーポレートガバナンスの強化



プライム市場を目指して持株会社化を進めていく中では、コーポレートガバナンスを強化していきます。

弊社は、監査等委員会設置会社として10月1日にスタートしますので、ガバナンスやコンプライアンスをしっかりキープしながら運営していく所存です。

このあと、井戸より事業について説明させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

東名高速道路の大規模更新



- 東名高速道路の床板取替を中心とする大規模更新に対する設計
- 高度な解析等の設計技術を駆使し、安全を担保しながら早期の更新完了に貢献

井戸：それでは、昨年の10月から今年の3月、もう少し含めて、今年の5月ぐらいまでになりますが、その間に弊社が行ってきました事業の中から、主だったものをご紹介します。

まずは、高速道路の大規模更新です。長大としては2018年から取り組んでいる事業です。東名・名神ができてから50年以上経ちますので、今後、全国的に高速道路の大規模更新が増えてきますので、全国的に道路のこういったものを受注するためには、何か最初にやっておくべきだろうということで、現在、東名高速道路の大規模更新の事業に携わっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

「新阿蘇大橋」が開通



開通した新阿蘇大橋

- 計画、設計を担当。国内最大規模のPC箱桁橋となる。
- 地域の期待を担った復興のシンボルとなる。

続いて、九州の新阿蘇大橋の案件です。皆さんご存知のものと思いますが、本年の3月7日に開通しております。非常に大きな橋で、橋面から谷までだいたい97mという、非常に深い谷を横断している道路です。新阿蘇大橋は、令和2年度土木学会田中賞を受賞した、非常に誇らしい設計となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

東日本大震災、復興への10年の取り組み



石巻市 内海橋

- 被災した生活基盤の復興とインフラ整備に向けて、被災直後に橋梁調査を開始。
- 三陸沿線道路をはじめ復興道路の多くの橋梁を設計し、道路整備に貢献。

次に、東日本大震災から10年経ちましたが、この間、弊社も復興道路の事業促進 PPP などへの参画、数々の橋の設計に携わるなど、大きく貢献をしてまいりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

再生可能エネルギー

バイオマス発電所が竣工



- 山梨県南部町と「公民連携木質バイオマスガス化発電事業」を行う。
- 売電収益を再投資して地域振興に活用。環境保全と安定した運営を両立させカーボンゼロに資する持続可能な「強い地域社会の礎」を目指す。

ここで、再生可能エネルギーに関連した事業のご紹介です。

山梨県南部町の公民連携木質バイオマスガス化発電事業が、やっと完成いたしました。今年5月21日に竣工式を行いました。現在、試運転を進めており最終確認の段階です。この6月には商業運転に入ります。

これは木質バイオマスガス化発電事業の第1号案件であり、第2号案件の話もあります。他の会社さんから、ここで使っている発電機をぜひ使いたいという引き合いも来ておりますので、かなり大きな事業になっていくのではないかと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

再生可能エネルギー

台湾の太陽光開発事業に進出



写真右がe-Formula社のピーター会長

- 台北に本社を置くe-Formula社と台湾における太陽光発電事業に共同で取り組むことに合意。現地法人を設立。
- 今後の協業を通じて、台湾でのコンサルティング業務へ展開を図る。

次に太陽光発電です。

私ども長大は、小水力発電・風力発電・バイオマス発電に取り組んできたわけですが、再生可能エネルギーの中で太陽光発電にはタッチしておりませんでした。しかし今回、台湾に本社を置く e-Formula 社とのご縁がありまして、台湾で太陽光発電に取り組むことになりました。

太陽光発電については、弊社がフィリピンでやっております小水力発電に用いる堰堤にできた大きな湖の湖面に太陽光パネルを置いて、複合的な発電を行いたいという話も出てきており、そういうものに今後対応していくためにも、太陽光発電の知見・技術も蓄積していく必要があるだろうと考え、今回、この台湾の事業と一緒に取り組むということで、コンサルティング業務を受注して、技術力を磨いていきたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

別府市のグランピング施設が完成



施設イメージ

- 大分県別府市の「鉄輪地獄地帯公園Park-PFI」によるグランピング施設が2021年4月27日にオープン。
- 今後20年近くにわたりSPCの運営管理や事業全体マネジメントを行う。

続いてグランピングです。

長大もついに、こういうものに進出したのかと思われる事業ですが、宿泊施設の運営・管理事業です。

写真を見ていただくとわかりますが、ドームが14個あります。14の部屋があるということで、6タイプの部屋を用意しております。グランピングですから、食べ物は美味しい、各部屋に温泉もついているということで、素晴らしい施設になっております。小さいドームで4人～6人、大きいドームですと8人～10人宿泊することができ、本年4月27日に既にオープンしております。大分県に行く機会がございましたら、ぜひご利用ください。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

フィリピン国セブ島-新マクタン橋の設計業務を受注



- 最大支間長210m強の鋼箱桁橋の設計等を担当。
- セブ島-マクタン島の都市間の社会経済の健全な発展の寄与することが期待される。

海外では、フィリピンのセブ島とマクタン島を結ぶ新マクタン橋の案件です。

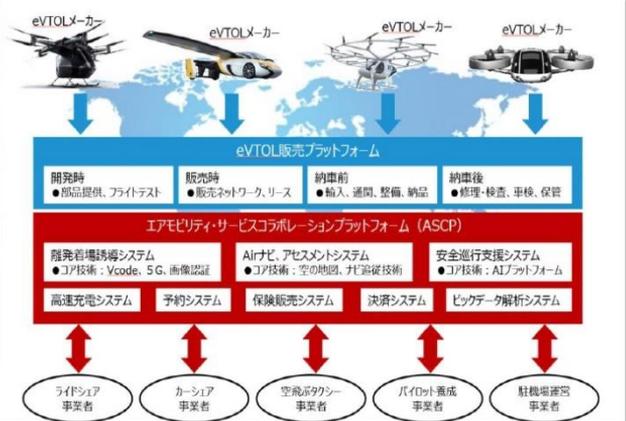
セブ島は比較的大きな島で、そのすぐ横にマクタン島という小さな島があります。日本の方が、セブに遊びに行こう、というのは、実はこのマクタン島の東南にありますリゾートの海岸でございます。このマクタン島の中にセブの空港もあり、空港・リゾートのあるマクタン島とセブの市内を結ぶ橋として、非常に重要な橋になるということでもあります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2030年に向けたプロジェクト紹介

空の移動革命に向けた「空飛ぶクルマ」プロジェクトへの参画



- 『空飛ぶクルマプロジェクトチーム』を事業戦略推進センター内に設置
- 様々な主体と協働し、制度設計、実装に向けた計画・設計、事業サービス展開へと推進中

次に空飛ぶクルマプロジェクトです。

実現するまでには、まだまだいろいろなハードルはあるかと思いますが、こういうものに建設コンサルタントとして取り組む必要があるということで、今、積極的に取り組んでいるところであります。ドローンの飛ぶ高さとヘリコプターの飛ぶ高さの中間層を、人を乗せた車が飛んでいくということで、今後、例えば空港とリゾートや、都市とリゾートをつないでいくような良い乗り物になってくのではないかなと期待しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2030年に向けたプロジェクト紹介

量子コンピュータによる電力配電最適化

量子アニーリングによる配電網最適化特許取得



- 将来の効率的な電力マネジメントに向けて、電力ロスを最小化する配電網の作成方法に関する特許
- 次世代電力網効率化事業へ向け研究の開始

最後ですが、量子コンピュータによる電力配電最適化です。

量子アニーリングによる配電の最適化というもので、実はもう国内で特許を取得しております。よくわからないな、と思われるかもしれませんが、量子アニーリングというのは、要は、膨大な選択肢がある中から最適な選択肢を、非常に高速かつ高精度で探索する計算技術であります。

例えば、道路で考えれば東京から大阪に行こうとすればいろいろなルートが出てきますが、その中に交通事故が発生したとかいろいろな情報を取り込んで、一番早く行けるのはどういうルートであろうか、というのを瞬時に計算してしまうということで、それを電力の配電に応用していこうと、今回特許を取ったものであります。

これまでの54期に取り組んでおります事業についての報告は、以上であります。ありがとうございます。

司会：ご説明、ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会： それでは、これから質疑応答に入ります。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。従って、質問の際、会社名、氏名を名乗られますと、そのまま公開されますので、匿名を希望される場合は、この点ご留意をお願いいたします。

それでは、ご質問のある方は挙手を願います。マイクをお持ちいたします。

質問者： 本日はありがとうございます。1点、永治社長に、最初のところで、研究開発投資が下期にずれ込んだとおっしゃっていましたが、これから特に、こういったところに研究開発投資をされていくのか。具体的なところや、お決まりのところがあれば、あるいは分野とかがあれば教えてください。

永治： 今、構造事業本部、社会創生事業本部、社会基盤事業本部と、技術の方は3本部制を取っています。その各本部に、今やるべきことや、やりたいこと、これから投資していきたいこと、全て挙げるように言っておりまして、この中から既に取り組んでいる部分もあります。

例えば、環境分野ですと、獣害を防止するためのシステムですね。獣が田んぼの中へ入ってくるようなもの。あるいは、オオタカですとか、いわゆる希少動物が空を飛びますが、今まではそれを双眼鏡で見て、軌跡図を書いて、どうもあの辺に営巣しているらしいみたいなことをやっていたのですが、それをカメラで自動追尾していくようなシステム。

そういった環境分野も一つありますし、それから橋梁設計なんかにおいて、BIM/CIM という世界で、今、かなり国交省さんも力を入れてやっているわけです。そのツールをどんどんいろんなケースにおいて作っていかないと、データ作成にもものすごい手間がかかるということでは効率化にならないので、そういったためのツール開発というのを一生懸命やっています。

そのほか、道路ですと、先ほどの交通関係のいろんなシステムを作って、今まで人間がやっていた部分を、どんどんコンピュータでできるところはコンピュータでやっというところなんです。

ただご承知かと思いますが、役所年度で言いますと、3月が工期の部分が多いものですから、やはりどうしても当初計画より3月以降にずれしまうという状況があります。来年のことではありますが、なるべく早く実施するよう指示出しています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



一応、計画は1月、2月、3月でも研究投資をする予定でしたが、先ほど言いましたように、国内の業績は好調であったということは、やはり国内が忙しいという状況になるわけですから、その分、研究投資には少し遅れが出ているという。そういう意味では、4月以降にずれ込むということ

司会：よろしいですか。それでは、ほかにご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

エンドウ：すみません。日刊建設工業新聞、エンドウです。お疲れさまです。ちょっと全般的な話を伺いたいのですがよろしいでしょうか。22年の9月期が、売上高357億円、営業利益が30億円ということを示されておりますが、長期ビジョンの目標数値と、来期のいわゆる見込みの数値を見たときに、永治社長ご自身は、このビジョンの達成の手応えというのを、どのように感じられているのかということ。

あと、お話の中で、海外が若干少ないというお話で、国内は好調だとのことですが、公共がやはりメインで、景気に非常に左右されやすい分野かと思えます。バランス良く業務を受注していくための今後の施策が、もしおありであれば教えてください。

永治：バランス良くというところから申し上げますと、このバランスは、4~5年前まで、やはり9割以上が公共の仕事でしたが、今は、恐らく70数%まで落ちていると思えます。それは結局、PFIなど、自前でやる事業を増やしている。それから民間の仕事も受けているというように傾向を変えています。

何年か前にご説明しましたが、やはり安定受注を考えると、公共一辺倒は非常に危険です。仰るとおりで、国の予算次第で上がったり下がったりしますから、そこを平準化することが、今、実ってきていると私は理解しています。

もう一つのご質問の、22年9月期の連結の着地、売上357億、営業利益30億の達成の手応えについてですが、今の状況で言えば、十分達成は可能だと思っています。できれば、それに上乗せしたいなと思っていますところでもあります。

というのは、先ほど申しましたように、海外も4月から社員が渡航しています。フィリピン、インドネシア、それから、基礎地盤はもともとシンガポールにずっと行っています。加えて台湾にも行っていますから、横展開をどんどん進めて、自治体の事業の遅れを取り戻すべく動いているところです。その分の売上は、計画どおりに戻してくる想定しております。そういう意味で言えば、計画どおりには行くだらうし、国内の景気対策を見れば、もっと増えてしまうかもしれない、というのが、私の感じです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



エンドウ：上振れするというのは、あくまでも22年9月期のことをおっしゃっているということ
で。

永治：我々の業界でいくと、先ほども申し上げましたように7割以上は公共ですから、21年の新規受注はもう残り少なくもうほぼ終わり、既に次の期の分の作業に今入ってきています。現在の作業分は今期には計上されませんから、今期はほぼ予定どおりを見込んでおります。

そのため、来期は少し上乘せしたいなとは思っております。長期の2030の売上600億円ですね。この、先ほど塩釜が示したようなグラフをそのまま伸ばせば、楽々達成可能ですので、そこに向かって事業を展開していく方針には変わりはありません。

エンドウ：ありがとうございます。

司会：それでは、ほかにご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

質問者：ご説明ありがとうございます。人・夢・技術グループについて、私のほうでまだ理解をしっかりとしていないものですから、そこについて、私のほうで2件ご質問させていただければと思います。

まず、こちらのほうのインタビューとかで、イノベーションの発想に基づいて、スピード感を持つてというふうなお話があったり、いろいろ経営戦略上のお話とかが書かれていますが、組織図は書かれていますけれども、私の中ではまだちょっとどういう形の組織でどういう形の方向性というか、どういう戦略をやっていくのかが理解ができなかったので、もう少し具体的にお話をいただければと思います。

2点目です。54期のテーマについて、個々の社員の結びつきを深め、地域とつながりを深め、企業連携を進めて、新たな未来を創って進むということですけど、具体的にどういうことを、社員の結びつき、いわゆる地域の結びつきの、具体的なものが構想としておありであるのか、その辺も少し具体的に教えていただければと思います。以上です。

永治：まず、人・夢・技術グループの体制、組織についてです。組織図は先ほど示したとおりですが、この中で、まずは経営企画本部に相当する部分の大部分は、「人・夢・技術グループ」のほうに移動します。

そこで、いろいろな事業に対する予定をつくる、計画をつくる作業をします。その中で、各個社に対して、こういう分野でこのぐらいの人員で、このぐらいの事業をしてくださいねという指導をしていくこととなります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



さらに研究開発に絡みますが、当然、個社の技術が重要であり、大切にしますから、そこから上がってくるものを、もう一度グループ全体でミックスし、人・夢・技術グループの中で、このグループとこのグループから出して、この会社とこの会社を合わせると、こういうことに展開できるじゃないかという評価をするなど行っていきます。

そういった形で、いわゆる民間企業で言うと、支社があって本社があるみたいな形の、本社が全体計画をつくって支社に指示をする、支社がこういうことをしたいから、本社に上げてくるような構成を想定しています。「人・夢・技術グループ」が本社に相当して、個社が支社に相当するというようなイメージであります。

あと、社員と地域の結びつきというのは、先ほど少し申し上げましたが、私どもの考えとして、地域が元気にならないと、日本の国は良くならないというふうに思っています。

これは、今回のコロナでもそうですけど、結局、東京がしばみ動けなくなると、地方まで影響が押し寄せてきて、国全体が沈んでくるような形になっています。そうではなく、地方には地方の良さがあるし、そこに人が安心・安全に住める世界を創っていかねばならない。

とすると、地域の人、例えば先ほど井戸が申しあげました北海道の更別村なんかですと、住民との協議会も設けていますし、それから役所との連携協定をして、常時いろんなやり取りをしながら進めていっています。

ですから、例えばフィリピンの事業でもそうですが、そういった形で、われわれの知見で、こんなことができるのではないのでしょうか、こうしたほうが全体的に潤いますよ、あるいは将来安心して住める形になりますよ、というものを提案させていただく。

それを、今度逆に受け取っていただいた役所、あるいは住民の方に、いやいやちょっと待てよという意見をいただくという形で、一緒になって地域を作り上げていくというふうなやり方をしていこうという。今でもそういう方向ではやっていますけれど、今後はさらにそれを加速させようと考えています。

塩釜：すみません、一つ目の、持株会社の件で少し補足させていただきますと、主旨は、ほんと永治が申しあげましたとおりです。言い方を変えると、この社名は、「人・夢・技術グループ」としてありますが、この、いわゆる持株会社の趣旨の流れでいきますと、人・夢・技術ホールディングというのが当てはまるのではないかと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



でも、私たちはそうじゃない。ホールディングというポートフォリオ経営をしていくわけじゃないと思っています。数値で管理して、決められたことをやりなさいというものではない。あくまでグループの横連携を通す。グループの展開を支援していくという、大きくはそんなスタンスです。

これ、どこかで聞いたことあるなという。ソニーがソニーグループとなったのと、全く実は同じなのです。真似したわけじゃないです。ソニーが発表した10月に、私たちもそれを決めていましたので、同じ感覚だなという。グループ会社を上からホールドしていく、ポートフォリオ経営をしていくことではない。

ですから、先ほど永治が申し上げたように、いろいろな経営企画に相当するようなものを、持株会社において、各個社が連携しやすいようにどんどん支援していく、事業展開しやすいように支援していく、研究開発、投資していくということです。あくまで主体は、もう個社にあるということです。

それと、先ほど言っておられた二つ目の質問、社員との結びつき、これも関係しています。今まで長大が事業持株会社でやっている中では、なかなかグループの末端、末端という言葉は変ですけど、まで、そこの目がいかなかった部分が正直あった。それをホールディング化、グループ化することで、社員と社員の結びつきをよりつなげていく、深めていく。

私たち、技術の会社ですので、技術のコラボレーションは必ず必要です。そこを、グループ会社が今までできなかったこと、もっともっと指導していくという、そこを狙っていくということで、その辺りをちょっとご理解いただけたらなと思い補足いたしました。

司会：それでは、あと残りわずかですが、あとお1人、1問ぐらいはお受けできるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

質問者：ご説明ありがとうございます。お時間もあれですので、1点だけお伺いさせていただきます。配当性向についての考え方なのですが、25%というところについて、一般的な市場平均と比べると、決して高くはないかなと思っています。例えば、人・夢・技術グループに変わっていく節目とともに、何かこういった株主還元についての見方で変えていきたいところ、何か見直していただきたいところがあればお願いいたします。

永治：この25%、平均的という意味じゃ、やや少ないのかもしれませんが。これを、われわれ、昔から安定配当を目指していますので、「今年の配当がいくらです」ではなく、これを決めた時から、もう10年間はこのままの配当、これ以上の配当をしていきますよということを保証しようということなのです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ですから、25 というのが小さいという評価はあるかもしれませんが、基本的には配当性向 25% というのを維持していくと。仮に、儲からない時であれば、25%、もしくは 40 円以上という誓約をつけていますので、仮に儲からない時でも 40 円の配当は出しますと、当然配当性向は高くなります。

そういった、安定的に株主さんに投資していただいた分をお返ししていくことを目的にしていますので、「人・夢・技術グループ」になったからもっと上げるというよりも、安定性を重視したいという考えから変更しておりません。以上です。

質問者：分かりました。ありがとうございました。

司会：それでは、ちょうど予定をしておりました時間がまいりましたので、以上をもちまして、株式会社社長大様の IR ミーティングを終了いたします。

本日は、皆様、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

永治：どうもありがとうございました。

[了]

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

